

刊行にあたって

本報告書は、二〇一八～二〇二三年度科学研究費基盤研究(B)「南都の未整理文書聖教にもとづく寺社とその周辺社会の調査研究」研究成果報告書(領域番号18H00717 研究代表吉川聡)による調査のうち、京都市歴史資料館に保管される燈心文庫の東大寺文書の調査成果を公刊するものです。

燈心文庫は、京都大学名誉教授林屋辰三郎氏が蒐集されたコレクション資料で、現在は京都市が所蔵し、京都市歴史資料館が保管しています。内容は、平安時代から江戸時代にかけての公家・武家・寺家にわたる古文書からなり、なかでも重要文化財「京都北関入船納帳」は、室町時代の瀬戸内海交通や流通経済を知る上で欠かせない史料として知られています。今回調査したのは、この「京都北関入船納帳」と一緒に林屋氏が一括して購入した東大寺文書群82通です。調査の結果、この東大寺文書には、兵庫北関や堺浦に関する古文書のみならず、寺内で開催された仏事法会の請定(僧侶の招請状)が多数含まれており、本文書群が中世東大寺の社会経済活動や宗教活動を伝える重要史料であることが判明しました。

この報告書では、本文書群のすべてを翻刻し、主要な文書の写真とともに公開します。今後、本文書群が研究に活用され、中世寺院史研究が一層進展することを望みます。

令和六年三月